

(本ページの記載に一部誤解を招く表現がありましたので訂正いたします。)

東日本大震災による東京電力(株)福島第一原子力発電所の事故により、
周辺地域の皆さまをはじめ、広く国民の皆さまに多大なご迷惑とご心配をおかけしており、
深くおわび申し上げます。

福島第一原子力発電所1～3号機は、すでに冷温停止状態*に至りましたが、
今後は長期的な安全確保や、燃料の取り出し、廃炉に向けた取り組みを進めてまいります。

電力業界としましては、全国の原子力発電所の安全確保に万全を期し、
原子力発電への信頼を回復するとともに、電力の安定供給を確保することが使命と考え、
全力で取り組んでまいります。

東日本大震災により影響を受けた原子力発電所はすべて安定した状態に至っています

2011年3月11日午後2時46分、マグニチュード9.0という巨大地震「東北地方太平洋沖地震」が発生しました。

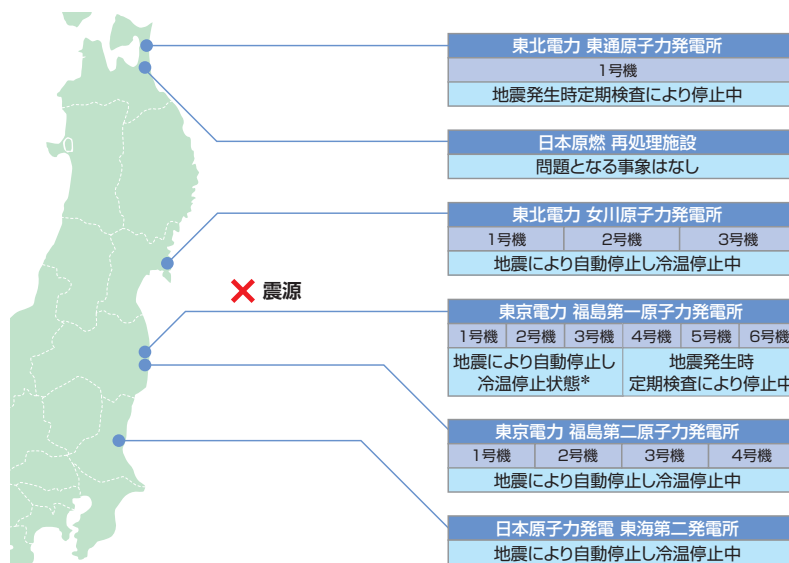
震源は牡鹿半島の東南東130km付近の三陸沖で、震源の深さは約24km。

地震直後には高さ10mを超える大津波が襲来し、

東北地方の太平洋沿岸を中心に、広い範囲に壊滅的な被害をもたらしました。

これにより福島第一原子力発電所で建屋の水素爆発や燃料溶融事故が発生したほか、

数カ所の原子力施設が影響を受けましたが、現在はすべて安定した状態に至っています。



* 冷温停止状態とは下記の条件を満たしている状態をいいます。
● 圧力容器底部および格納容器内の温度がおおむね100℃以下
● 格納容器からの放射性物質の放出を管理し、追加的放出による
公衆被ばく線量が大幅に抑制されている(敷地境界において
0.1ミリシーベルト/年、目標の1ミリシーベルト/年以下)
● 循環注水冷却システムの中期的安全を確保